

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和6年度第2回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	令和6年9月2日（月）午後7時00分～9時00分
開催場所	西脇市役所 大会議室
出席委員の氏名 又は人数	平田富士男会長、藤原悟副会長、藤井琢己委員、 松山千鈴委員、來住啓子委員、高澤有可里委員、 清水賢一委員、竹内諭委員、竹本愛委員、 田中美紗子委員、西山桂委員、堀井悠次委員 計12名
欠席委員の氏名 又は人数	松尾憲子委員、森川元良委員
出席職員 の職・氏名 又は人数	都市経営部長 渡辺和樹、まちづくり課長 藤原広 三、まちづくり課課長補佐 二若直也、まちづくり 課職員 野村悟史、片岡雪乃 計5名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
議題又は協議事項	1・2 開会、市民憲章朗唱 3 あいさつ 4 報告事項 (1) 令和5年度の審議会等の開催状況について (2) 西脇市市民提案型まちづくり事業の審査結果 について (3) 西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査結 果について 5 協議事項 (1) 参画と協働のまちづくりガイドライン改訂に ついて (2) 市民主体のまちづくりに関する啓発方法につ いて 6・7 今後の予定について、閉会
会議の記録（概要）	
発言者	発言内容等
	1・2 開会、市民憲章朗唱

	3 会長あいさつ
事務局 部会長	4 報告事項 (1) 令和5年度の審議会等の開催状況について 資料1「令和5年度に開催された審議会等の開催状況等一覧表」に基づき、事務局から説明 (2) 西脇市市民提案型まちづくり事業の審査結果について (3) 西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査結果について 資料2「西脇市市民提案型まちづくり事業企画書の審査結果について」及び資料3「西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査結果について」に基づき、西脇市まちづくり推進審議会審査部会長から説明
事務局 会長 委員 事務局 委員 事務局 会長	5 協議事項 (1) 参画と協働のまちづくりガイドライン改訂について 資料4「参画と協働のまちづくりガイドラインの改訂について」、資料5「西脇市参画と協働のまちづくりガイドライン(案)」、資料5(参考)「西脇市参画と協働のまちづくりガイドライン改訂版」、資料6「参画と協働のまちづくりガイドライン(案)改訂箇所新旧対照表」に基づき、事務局から説明 平成27年3月に改訂された参画と協働のガイドラインの内容をベースに、時代の変化を踏まえた改訂を加える流れで進めていきたいが、何か意見や感想はないか。 1ページに記載の人口推移の数値であるが、実際の人口推移と国立社会保障・人口問題研究所の推計値に差異はあったか。 令和2年度の数値を比較したが、大きな差異はなかった。 また、以前の推計値と比較して、今回の推計値では15歳から65歳未満の生産年齢人口の減少が加速しており、令和32年時点で65歳以上の人口を下回る推移となっている。 西脇市で推計している人口推移があれば、そちらを使用した方が現実に近い数値になると思う。また、その推移を文章ではなく、視覚的にわかるような方法で記載した方がいいのでは。 人口推計の有無を担当課に確認し、データの変更を検討する。また、人口推移の記載についてはわかりやすい表現に変更する。 資料4のなかで、このガイドラインは参画と協働のまちづくりを重点的・実践的に実施するため、市民と行政の双

事務局 会長	<p>方が共有する指針となるものという説明がある。この記載は良い説明だと思うが、現行のガイドラインに記載されているか。</p> <p>平成17年3月に策定された当初のガイドラインには記載されているが、現行のガイドラインには記載がない。</p> <p>通常ガイドラインというものは、行政が施策を実行する際の基準となるものというイメージがあるが、このガイドラインは行政と市民双方が共有するものということなので、その旨を記載すべきである。</p> <p>また、改訂案の2ページ目に市民ニーズの多様化・複雑化とあるが、ニーズだけでなく社会そのものが多様化していること、また複雑化という言葉は悪いイメージも含まれるため、社会の多様化という表現でもいいのでは。</p>
事務局 委員	<p>ご意見を踏まえ、社会の多様化という表現に変更するのはいかがか。</p> <p>社会や人々の価値観の多様化はどうか。</p> <p>社会という表現は価値観や文化、ライフスタイルなど全てが含まれるとは思いますが、読み手に距離感を与える。市民生活などの表現の方が読み手に近いイメージである。</p>
事務局 会長	<p>ご協議いただいた趣旨を踏まえ、総合計画等の記載も参考にしながら検討させていただく。</p> <p>第2章及び第3章では、参画と協働の具体的な手法や留意点の記載があるが、留意点に主語を入れるべきでは。先程の説明にもあったとおり、このガイドラインは市民と行政の双方が共有する指針となっているため、それぞれの果たすべき役割が書かれているべきである。主語がないため、誰かがやってくれるという読み方もできてしまう。択一的な主語でなくてもいいので、入れた方がよい。</p>
委員	<p>市民ニーズの多様化・複雑化の項目の文章構成について、様々な問題を解決するために参画・協働できる社会を目指す必要があるという構成から、大変なことをする必要があるというイメージを受ける。参画・協働できる社会を目指せば、このような問題が無くなっていくだろうという希望が見えるような文章構成がいいのでは。</p>
事務局 委員	<p>そもそもの話になるが、このガイドラインはどこかに置いてあるのか。</p> <p>ホームページで公開はしているが、冊子として各家庭に配布はしていない。</p>

委員	<p>例えば、子育て施策のパブリックコメントであれば、子育て世代が集まるミライエで資料を置いたり、小学校の親御さんに呼びかけたりはされているか。</p>
会長	<p>今のご質問は、パブリックコメントの留意点に記載されている内容であるが、やはり留意点に主語がなく、誰が留意すべきかがはっきりと記載されていないために生じたご質問だと感じる。</p>
会長	<p>参画の留意点は、市が留意することの記載が主になると思うが、協働の留意点には市と市民それぞれが留意することを記載すべきである。それぞれの留意点を明確に記載することでよいガイドラインになるのでは。</p>
事務局	<p>(2) 市民主体のまちづくりに関する啓発方法について</p> <p>本日はもう1つ議題があり、まちづくり活動を始めるきっかけとなる啓発リーフレットの作成について、前回の審議会の意見を踏まえ、事務局に修正案を作成いただいたので、再度ご協議いただければと思う。それでは、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料7「市民主体のまちづくりに関する啓発リーフレット」について、前回の意見と変更点について事務局から説明。</p> <p>〈前回の意見と変更点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に文章が難しく読みづらい印象がある。 <ul style="list-style-type: none"> → 文字を減らし、イラストを増やすことで視覚的にわかりやすい構成に変更 ・ 絵本のようなデザインの表紙で興味を引くため、中身も絵本のようにしては。 <ul style="list-style-type: none"> → 中身についても絵本のようなデザインにした。誰もがまちづくりを自分ごととして捉え、自分のことから始めてほしいという想いを込めている。 ・ QRコードを裏面にまとめて掲載するのではなく、見開きページの関連箇所に掲載する方が、気になった時にすぐ見られるのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> → 関連箇所にQRコードを掲載した。またQRコードの数も減らし、全体的にシンプルな構成にした。 <p>また、QRコードのリンク先である活動紹介ページでは、PDFファイルを開かずとも概要がわ</p>

<p>会 委 員</p>	<p>かるよう修正した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が興味のあるような取組を具体的に紹介できれば、手にとってもらいやすいのでは。 <p>→ 興味のあるようなキーワードを具体的に表記した。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>このリーフレットについて何か意見や感想はないか。</p> <p>最後のページのステップ3「まちづくりをはじめよう！」に、まちづくり活動の相談窓口や補助金についての記載があるが、この記載だけではどんな活動を始めたらいいかわかりにくい。イラストの男の子、女の子のコメントに活動のイメージが沸くキーワードを入れるとイメージしやすい。</p> <p>また、文章の最後も昔話の締めのような終わり方であるが、未来に進んでいくような表現の方がいいのでは。</p>
<p>会 長</p>	<p>ステップ1でまちのことを知り、ステップ2で地域自治協議会や市民グループなどのまちづくり活動に参加した人が、まちのために自分でもこんなことをやってみたいと思いステップ3に進み、活動を進める際の相談や活動資金の確保を行うことを想定して構成している。この構成が少しわかりにくいかもしれないので検討したい。</p>
<p>委 員</p>	<p>ステップ2と3の違いがわかりにくいのかもしれない。ステップ2は実施されている活動に参加してみる、ステップ3は自分で始めてみるという違いがある。ステップ2の「1歩踏み出してみよう！」という記載が自分で始めてみるというように感じられたのかもしれない。</p>
<p>委 員</p>	<p>ステップ1のユーチューブの説明文が、ら抜き言葉になっているため修正すべきである。</p> <p>また、みんぐるサポートの説明をみると、困ったり悩んだりした際に相談するイメージを受けたので、まちづくり活動を始めようとする際のしたくなった人の思いをかたちにしてくれる場所であることを表現してほしい。</p>
<p>委 員</p>	<p>私がみんぐるの代表であるが、みんぐるでは基本的に困っていることがなくても気軽に相談しに来てもらえればと思っている。そのような思いが伝わる記載に変更したい。</p> <p>まちづくり活動の相談に関する記載だが、みんぐるがまちづくり活動の支援等に関する西脇市の委託先であることを明示した方が安心して相談できるのでは。</p> <p>また、ステップ2では、団体を作らないとまちづくりができないイメージを受けた。何かやっている団体に参加するこ</p>

<p>会 長</p>	<p>とでもまちづくりになるようなイメージでもいいのでは。</p> <p>本来ステップ2では、団体に参加することもまちづくりだということ表現したいのであるが、「1歩踏み出してみよう」という表現が自分でやってみるという風に受け止められるのかもしれない。ステップ2を参加してみようのような表現に変更し、ステップ3を一步踏み出してみようという表現にするほうがいいのでは。ステップ2と3の表現を再検討することが必要である。</p> <p>本日の協議はここまでとするが、ガイドラインの改訂に関する審議はもう少し必要であるように思えるので、意見を出しやすくなる方法を検討する必要がある。</p> <p>啓発リーフレットの作成については、ステップ2と3を整理するなど、今回の意見を踏まえ、再検討していただきたいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>6・7 今後の予定について、閉会</p> <p>参画と協働のまちづくりガイドライン及び市民主体のまちづくりに関する啓発リーフレットについて、ご審議の時間も限られているため、各委員から加筆・修正などのご意見があれば、事務局へご連絡いただきたい。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>都市経営部まちづくり課</p>